

令和7年度「地域と共にある学校づくり」研修会 実施報告

《日 時》 令和8年2月2日（月）

《会 場》 県立教育研究所 大講座室

《参加者》 ○県内の公立の幼稚園、認定こども園、小学校、中学校、義務教育学校、県立学校の教職員
○学校運営協議会委員、地域学校協働活動推進員等（地域コーディネーター含む）
○社会教育関係者、市町村教育委員会事務局職員

計126名

《内 容》

◆第1部 表彰式

「魅力かがやく学校・地域づくり」奈良県教育委員会教育長賞 表彰状授与
葛城市立當麻小学校学校運営協議会及び「いざ 當麻！まいる一む（参る一む）」における取組

◆第2部 研修会

○取組報告

地域資産学習

～児童の主体的な学びを育む学校づくり 地域との協働的な取組を通して～
葛城市立當麻小学校 校長 岡島 眞寿美



表彰状授与式



取組報告

○講評及び講演

「学校運営協議会における熟議を通した『特色ある学校づくり』について」

文部科学省CSマイスター 安齋 宏之

- 社会総掛かりで子どもと地域の未来を創るためには、保護者・地域との対話に基づく「共有できる価値ある目標づくり」が重要である。目標をつくり、作成にいたるプロセスも共有することが、各主体の当事者意識や参画意識の醸成につながる。
- 学校経営のマネジメントサイクルに、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の機能を位置付け、活用することが重要である。
- 学校や地域の課題・現状から、学校運営協議会の熟議により「育てたい子ども像」等の目標を共有し、学校運営を改善するための具体策を地域リソースを生かして具現化していくことが、「それぞれの学校の特色づくり」につながっていく。



《参加者の感想（一部）》

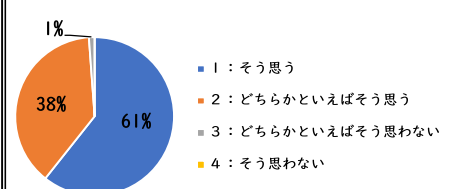
（葛城市における取組について）

- ・子どもを真ん中に置いて、「どんな子どもを育てたいのか」を考えられる場は、これからの時代とても大切になっていくと思うので、本校でも、地域とそのような関係を築くことができるといいなと思いました。
- ・未来の子どもたちにどのような力をつけてあげたいか、その見通しをもって地域と学校が手を携えていくことが大切だと強く思える報告でした。

（講評及び講演について）

- ・「学校の特色を活かしていくために何が必要なのか」を考える際に、校長一人の思いや考えだけではなく、学校運営協議会委員、教職員、地域・保護者の思いや考えもしっかりと汲み上げられる組織づくりが必要だと思いました。
- ・「誰かがしてあげている」という意識ではなく、各々の立場で自分たちのためにもなるという意識をもって、熟議していくことが大切だと学びました。

コミュニティ・スクールを充実させるための重要なポイントが理解できた。



子どもの教育課題解決のために、学校と地域が連携・協働する取組を推進するための知識・理解が深まった。

